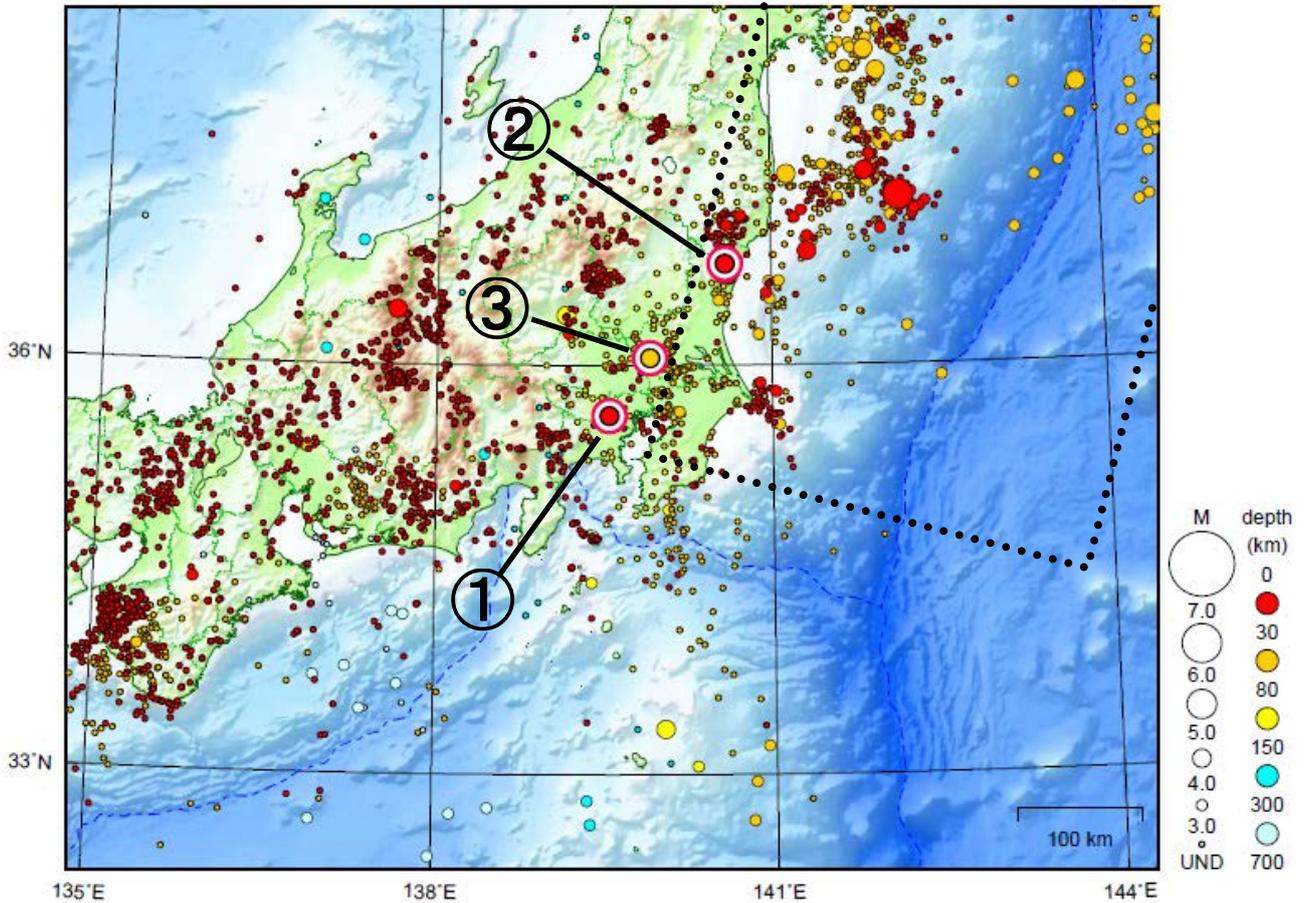


関東・中部地方

2016/02/01 00:00 ~ 2016/02/29 24:00

N=3849



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 2月5日に神奈川県東部でM4.6の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 2月7日に茨城県北部でM4.4の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 2月7日に茨城県南部でM4.6の地震（最大震度4）が発生した。

（上記範囲外）

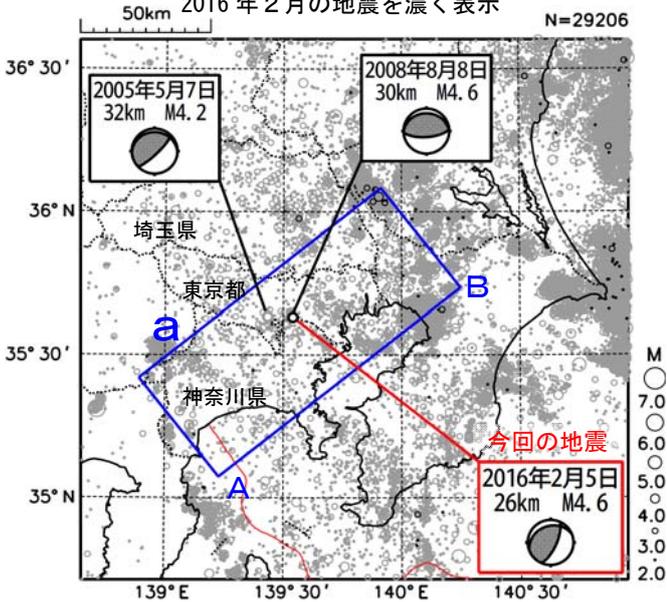
2月15日に鳥島近海でM6.0の地震（最大震度2）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

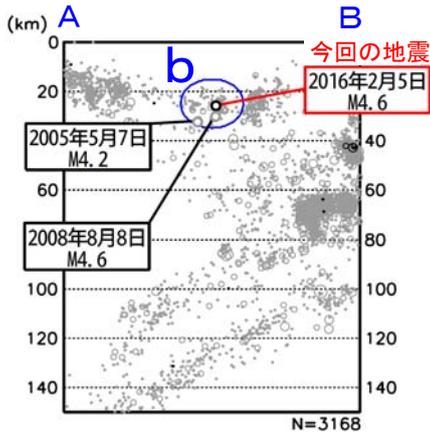
2月5日 神奈川県東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2016年2月29日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
2016年2月の地震を濃く表示

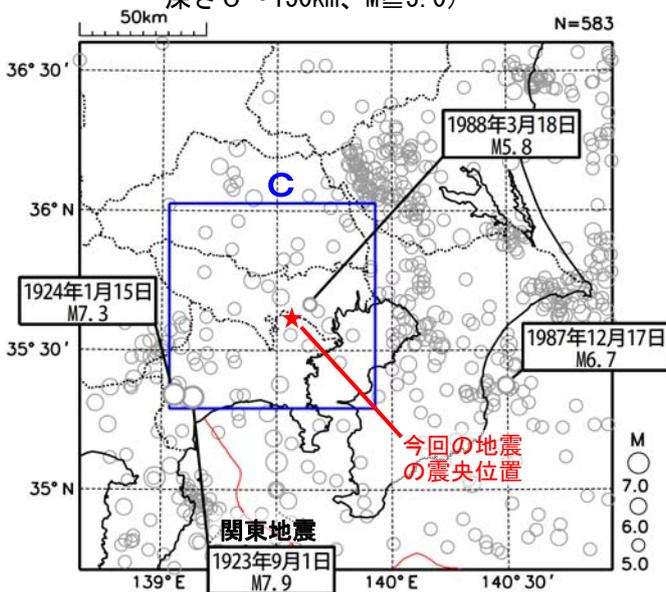


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2016年2月29日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

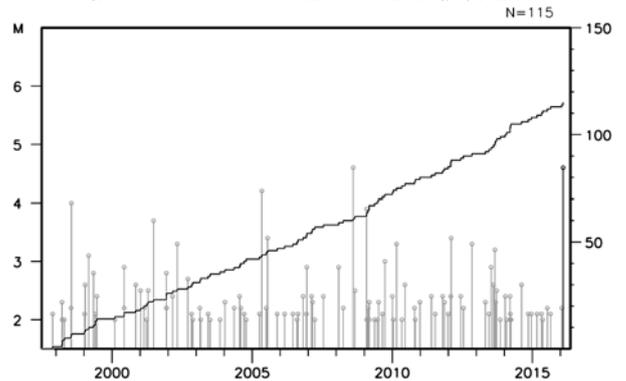


2016年2月5日07時41分に神奈川県東部の深さ26kmでM4.6の地震（最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートとの境界付近で発生した。

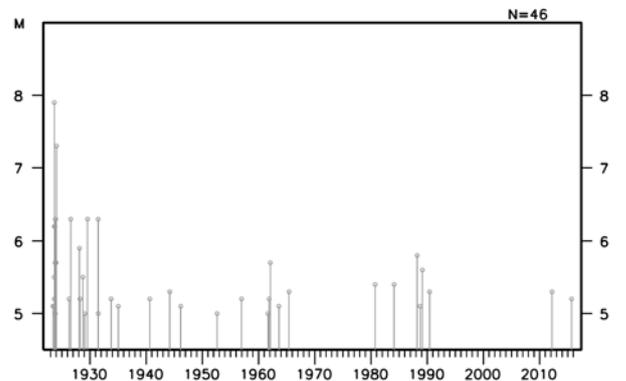
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震が時々発生している。2008年8月8日には、今回の地震とほぼ同じ震央位置の深さ30kmでM4.6の地震（最大震度4）が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1923年9月1日にM7.9の地震（関東地震）が発生している。この地震により、死者・行方不明者10万5千人余、住家全潰10万9千余、住家焼失21万2千余等の被害が生じた（被害は理科年表による）。その後、1930年代前半にかけて、M6.0以上の地震が発生していたが、それ以降はM6.0以上の地震は発生していない。

領域b内のM-T図及び回数積算図



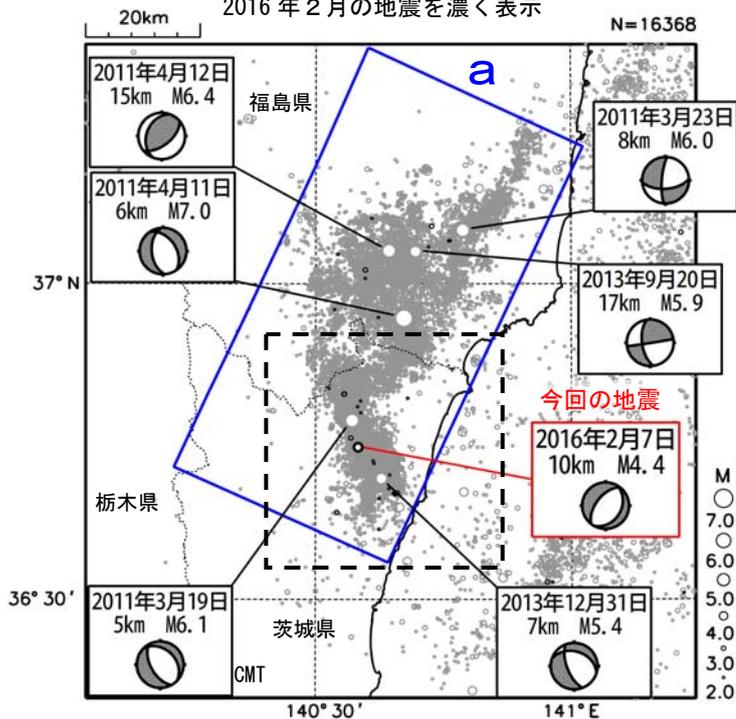
領域c内のM-T図



2月7日 茨城県北部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2016年2月29日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)
2016年2月の地震を濃く表示

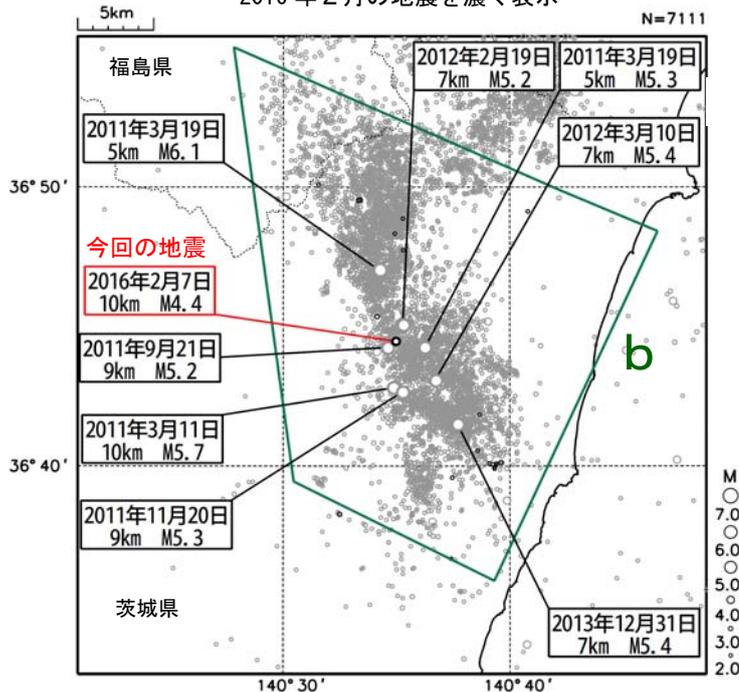


2016年2月7日10時09分に茨城県北部の深さ10kmでM4.4の地震(最大震度4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震は発震機構が北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。

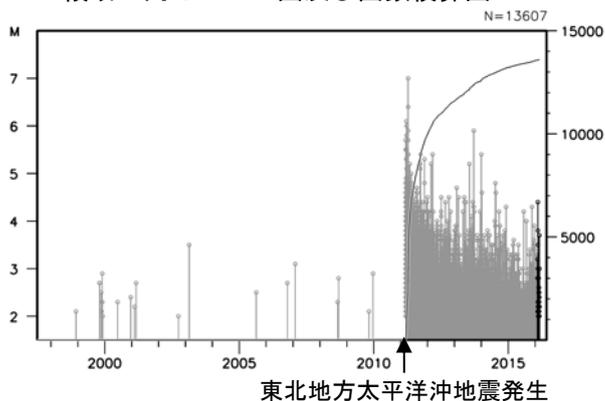
福島県浜通りから茨城県北部にかけての地殻内(領域a)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生後に地震活動が活発化し、2011年4月11日に発生したM7.0の地震では、死者3人、負傷者10人等の被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。その活動は、全体として低下しているものの、2011年以前に比べて活発な状況が継続している。

今回の地震の震央付近(領域b)では、東北地方太平洋沖地震の発生以降、M4.0以上の地震がしばしば発生しており、2011年3月19日には、M6.1の地震(最大震度5強)が発生している。

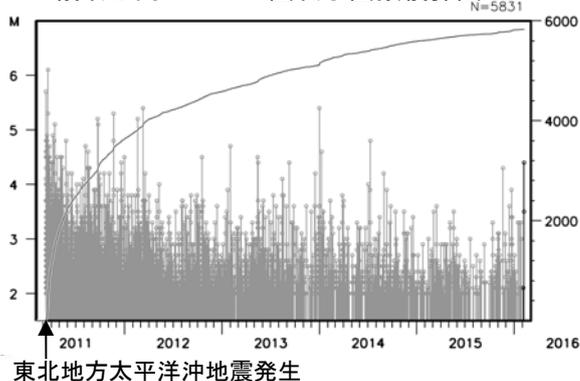
上図の破線矩形内の震央分布図
(2011年3月1日～2016年2月29日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)
2016年2月の地震を濃く表示



領域a内のM-T図及び回数積算図



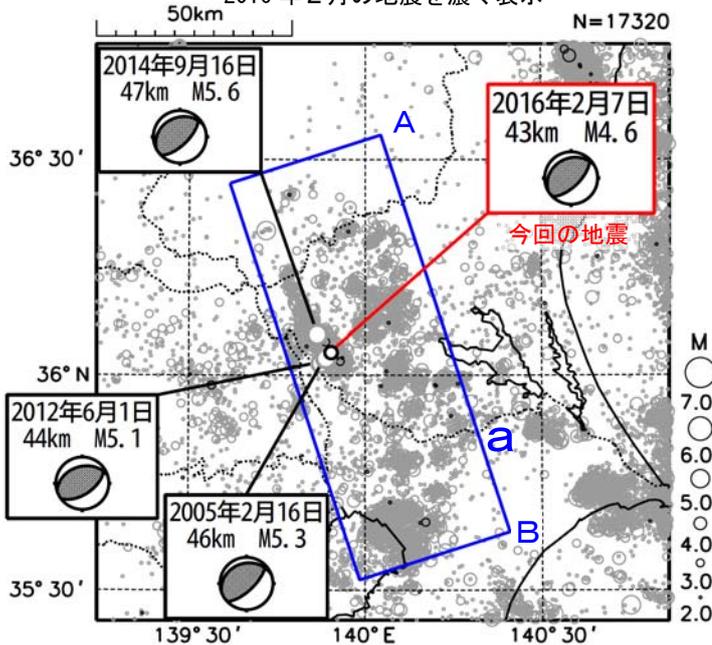
領域b内のM-T図及び回数積算図



2月7日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2016年2月29日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)
2016年2月の地震を濃く表示

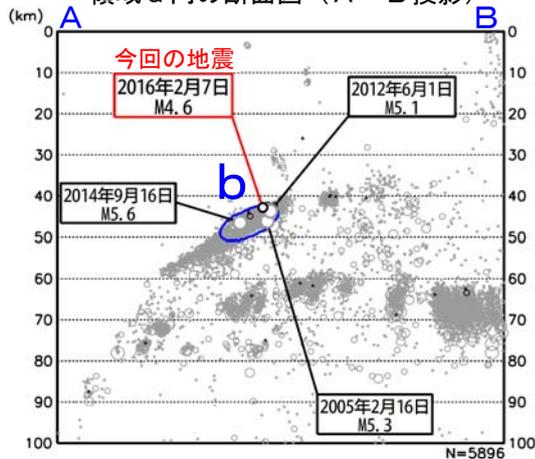


2016年2月7日19時26分に茨城県南部の深さ43kmでM4.6の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

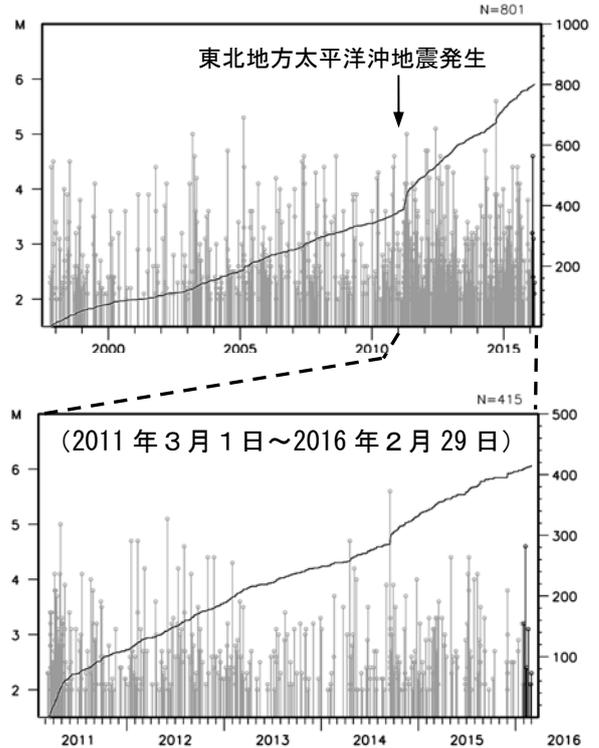
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、活動が活発な領域で、M5程度の地震がしばしば発生している。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、最近では2014年9月16日にM5.6の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6程度の地震が時々発生している。

領域a内の断面図 (A-B投影)

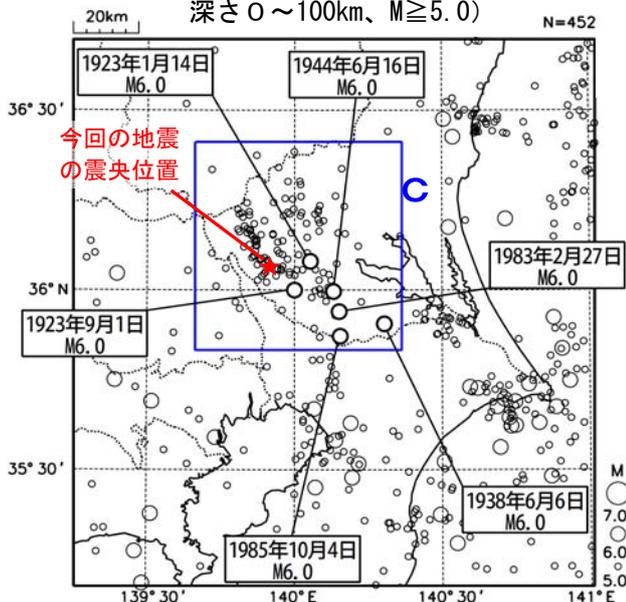


領域b内のM-T図及び回数積算図

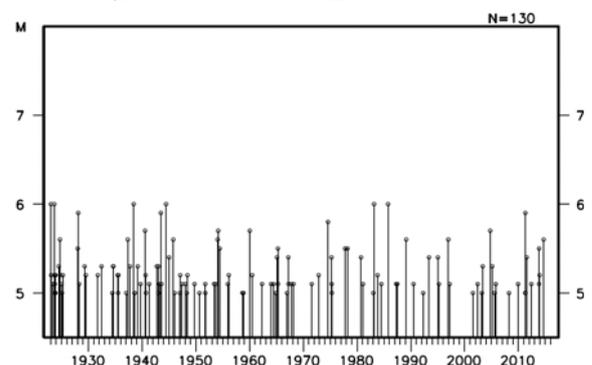


震央分布図

(1923年1月1日～2016年2月29日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

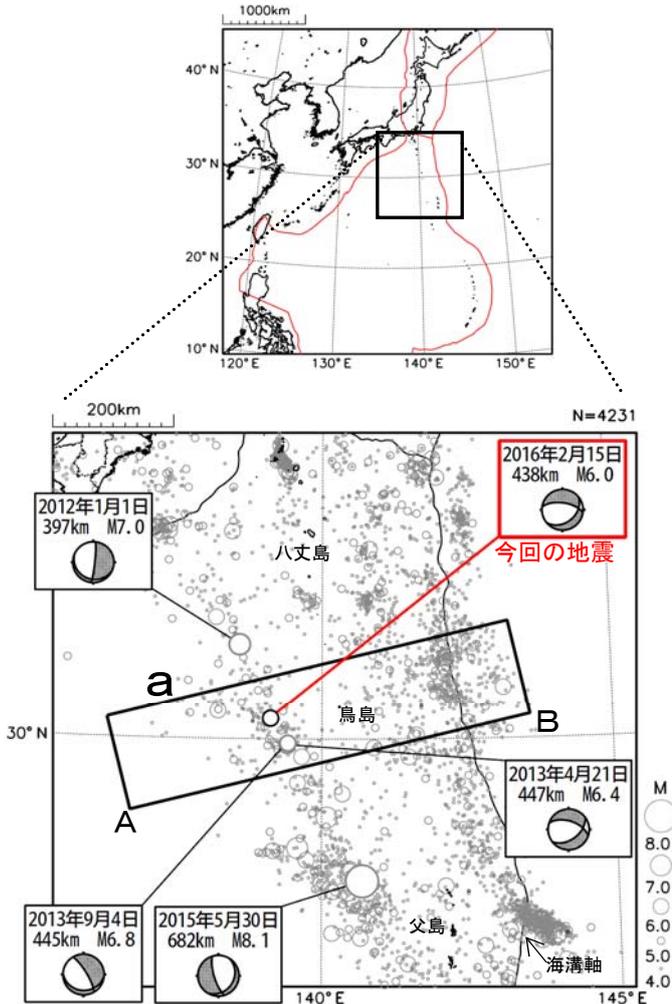


領域c内のM-T図



2月15日 鳥島近海の地震

震央分布図
(2000年1月1日～2016年2月29日、
深さ0～700km、 $M \geq 4.0$)
2016年2月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解

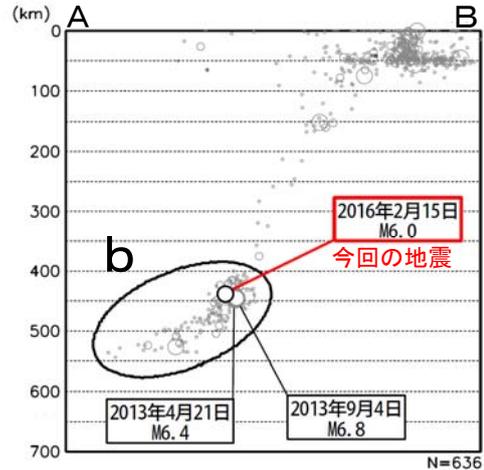


2016年2月15日03時09分に鳥島近海の深さ438kmで $M 6.0$ の地震(最大震度2)が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構(CMT解)は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

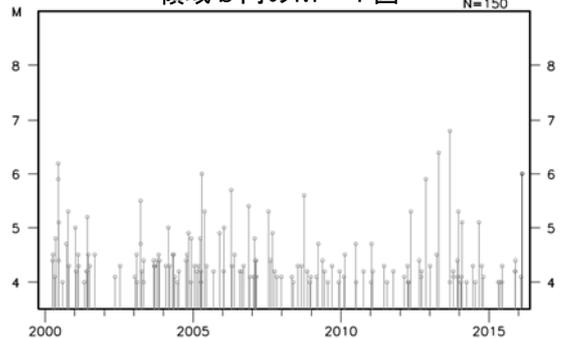
2000年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺(領域b)では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。2013年9月4日に $M 6.8$ の地震(最大震度4)が発生した。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1984年3月6日に $M 7.6$ の地震が発生した。この地震により、死者1人、負傷者1人等の被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図



領域c内のM-T図

